

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530813

研究課題名（和文） ドイツにおける中等社会系教科目の学力像に関する研究

研究課題名（英文） A Study of the Views on Scholastic Ability in Secondary Social Studies Education in Germany

研究代表者

服部 一秀 (HATTORI KAZUHIDE)

山梨大学・教育学研究科・教授

研究者番号：60238029

研究成果の概要（和文）：

本研究は、中等社会系教科教育の新たな改革の方向を探るため、ドイツの中等教育段階における社会系教科目の学力像について追究するものである。各州のレアプラン、各教科目の関連学会等によって作成・提案された教育スタンダード、各州でのアビトゥーア試験のために各州文部大臣会議（KMK）によって提示されたEPA（Einheitliche Prüfungsanforderungen in der Abiturprüfung）などの分析を行い、同国の前期中等教育段階・後期中等教育段階における社会系教科目の学力像の特質や意義また課題を究明している。

研究成果の概要（英文）：

This study clarifies the views of scholastic ability of students in secondary Geography Education, History Education and Civics Education in Germany through the analysis of the educational standards published by the institutes on social studies education and the EPA published by KMK (The Standing Conference of the Ministers of Education and Cultural Affairs of the Länder in the Federal Republic of Germany).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード： 社会科教育、地理・歴史・公民、学力、ドイツ、教育スタンダード、アビトゥーア、EPA、レアプラン

1. 研究開始当初の背景

社会科のアイデンティティは今なお確立されているとはいえない。社会科という教科は教育の成果として学習者に何をこそ育成するのが繰り返し問われてきている。

とりわけ、諸外国の多様な社会系教科目の教科課程や教科書などの分析検討を通して、新たな学力像を追究する試みが展開されてきた。研究代表者もドイツにおける先進的な学力像の解明に取り組んできた。

研究代表者のものも含め、これまでの先行研究の多くに共通していることは、インプットとして教師が何をどのような順次で学ばせようとしているかという問題視点から、社会系教科目の教科課程や教科書などを分析検討していることである。

本研究（平成 20 年度～24 年度）の開始に先立つ平成 19 年度、研究代表者はドイツ地理学会による地理の教育スタンダードを分析し、前期中等地理教育における主要な学力像について考察した（服部一秀「ドイツ地理学会版教育スタンダードの地理学力像」、『山梨大学教育人間科学部紀要』第 9 巻、2008 年、pp. 122-146）。アウトプットとして学習者が学習後に何をできるようになっていることを求めるかが問われていることが明らかとなった。

ドイツでは近年、学力をめぐる議論が活発化し、インプット志向からアウトプット志向への重点移動が図られつつあり、それらの取り組みの議論において、各社会系教科目は何を学習者に育成する教科目であるかが改めて問い直されている。

そこで、日本の社会科教育における学力像

再構築のための手がかりを求め、ドイツの中等教育段階における社会系教科目の主要な学力像を追究する本研究を立ち上げることとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツの中等教育段階（前期中等教育段階・後期中等教育段階）における社会系教科目の学力像の特質や意義また課題を明らかにすることである。

そのために本研究では、インプットとしてどのような内容を習得させよう目指しているかという視点だけでなく、アウトプットとして学習者が何をできるようになることを求めているかという視点を重視する。前期中等社会系教科目の学力像を究明するための主な分析対象は、各教科目の関連学会等による教育スタンダード、各州のレアプランなどである。後期中等社会系教科目の学力像を究明するための主な分析対象は、KMKによるEPA、各州のレアプランなどである。本研究では、これらの分析を行い、ドイツの中等教育段階における社会系教科目の学力像について追究する。

3. 研究の方法

本研究は、研究方法上において、2つの大きな特質を有する。第一は、新しい分析視点である。すなわち、アウトプットとして各段階末時点で何ができることを求めているかという新たな視点を導入することである。第二は、新たな分析対象である。教育スタンダード、アビトゥーア試験に関するEPAという日本の社会科教育学研究では取り上げられてこなかった対象を分析の中心対象とす

ることである。

本研究は、平成 19 年度における地理の教育スタンダードの分析による学力像の究明を踏まえ、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 カ年にわたり、以下の計画にしたがって展開された。

[平成 20 年度]

歴史の教育スタンダードの分析による学力像の究明

[平成 21 年度]

公民の教育スタンダードの分析による学力像の究明

[平成 22 年度]

地理のアビトゥーア試験に関する E P A の分析による学力像の究明

[平成 23 年度]

歴史のアビトゥーア試験に関する E P A の分析による学力像の究明

[平成 24 年度]

公民のアビトゥーア試験に関する E P A の分析による学力像の究明

前期中等社会系教科目の学力像については、主として平成 20～21 年度に取り組んだ。後期中等社会系教科目の学力像については、主として平成 22～24 年度に取り組んだ。なお、各年度においては、諸州のレプランなどをもとに、各教科目の教育動向の把握につとめた。

4. 研究成果

(1) 地理の E P A においては、「事象コンピテンス」、「オリエンテーション・コンピテンス」、「方法コンピテンス」、「表現コンピテンス」、「社会的コンピテンス」という 5 つのコンピテンス領域が重視されている。また、アビトゥーア試験課題の構成に関して求められていることは、現実の具体的な課題状況や問題状況の主題化、複数領域の諸能力に基づ

く各局面の遂行の要求、3 つのレベルの思考操作による諸局面の段階的遂行の要求とまとめられる。既存の空間の有り様についてわかることが相対的に重んじられているけれども、それだけでなく新たな在り方について考えられることまでが地理学力と考えられている。空間形成能力としての地理学力像がとられているといえる。

(2) ドイツ歴史教師協会 (V G D) による歴史 (ギムナジウム第 5～10 学年) の教育スタンダードでは、「事象コンピテンス」、「メディアコンピテンス/方法コンピテンス」、「解釈・熟考コンピテンス」という 3 つのコンピテンス領域が設定され、それぞれの領域ごとにスタンダードが設けられている。前期中等教育段階の修了時点において学習者がドイツ史・ヨーロッパ史・世界史の認識と史料分析・自立的共同的探究によって歴史解釈を創造・吟味・活用できることが重んじられている。歴史の E P A では、「事象コンピテンス」、「方法コンピテンス」、「判断コンピテンス」という 3 つのコンピテンス領域が重視されている。史料解釈型・歴史叙述検討型・歴史叙述形成型の試験課題が要求され、それらの構成においては、未考察の歴史的主題、歴史構成の実質的内容化、歴史構成のための思考操作の段階化が意図されている。これらの歴史学力像は歴史構成能力とまとめることができる。

(3) 政治教育学及び青少年・成人政治教育のための学会 (G P J E) の政治的陶冶 (初等中等教育) の教育スタンダードでは、「政治的判断能力」、「政治的行為能力」、「方法的な能力」という 3 つのコンピテンス領域が設定され、各段階の修了時点でのスタンダードが設けられている。ゾチアルクンデ/政治の E P A では、「事象・分析コンピテンス」、「方法コンピテンス」、「判断コンピテンス」、「行

為コンピテンス」という4つのコンピテンス領域が重視されている。論究志向型と構成志向型の試験課題が要求され、それらの構成においては、社会の問題に関する主體的なまとまりをもつように試験課題を設定すること、授業で扱ったことのない資料を取り上げ、それに基づいて出題すること、3つのレベルの思考操作を求める複数の設問で試験課題を構成すること、論究志向型では社会の有り様や新たな在り方について自分個人の考えをうみだすことを課すこと、構成志向型では共同で考えをつくるための仮想的な取り組みを課すことがねらわれている。これらの公民学力像は、社会の既存の有り様や今後の在り方に関する意思形成能力とまとめることができる。

(4) ドイツでは経済教育は社会系教科目だけで行われるわけではなく、職業準備系教科目でも行われる。ドイツ経済教育学会(DEGÖB)は学校教育における経済教育(初等中等教育)のスタンダードを作成・提案している。この教育スタンダードでは、「決定を経済的に基礎づける」、「行為状況を経済的に分析する」、「経済の体系的連関を説明づける」、「経済の枠組条件を理解し共同形成する」、「コンフリクトを広い視野から倫理的に評価判断する」という5つのコンピテンス領域が設定され、各段階の修了時点に関するスタンダードがコンピテンス領域ごとに設けられている。このスタンダードの経済学力像は、経済生活・経済社会形成能力とまとめることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ①服部一秀、ドイツの後期中等歴史教育における学力像－EPAを手がかりとして－、日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』、第36巻第1号、2013年、掲載決定、査読有り
- ②服部一秀、ドイツにおける後期中等公民的教科目の学力像－新旧のEPAに着目して－、『山梨大学教育人間科学部紀要』、第14巻、2013年、pp.131-143、査読無し
- ③服部一秀、中等一貫歴史カリキュラムにおける歴史文化探究力の育成－ザクセン州ギムナジウムの歴史科(第5～12学年)の場合－、全国社会科教育学会『社会科研究』、第76号、pp.1-10、2012年、査読有り
- ④服部一秀、ドイツ後期中等地理教育の学力像－アビトゥーア試験統一基準(EPA)の評価枠組設定と評価問題設計から－、『山梨大学教育人間科学部紀要』、第12巻、2011年、pp.93-108、査読無し
- ⑤服部一秀、近現代史教育のカリキュラムレベルにおける質的変革の論理－ドイツ連邦共和国ザクセン州の場合－、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』、第22号、2010年、pp.51-60、査読有り
- ⑥服部一秀、ドイツにおける経済教育の動向－ドイツ経済教育学会版教育スタンダードに焦点化して－、『山梨大学教育人間科学部紀要』、第11巻、2010年、pp.99-114、査読無し
- ⑦服部一秀、ドイツ歴史教師協会版教育スタンダードの歴史学力像、『山梨大学教育人間科学部紀要』、第10巻、2009年、pp.92-108、査読無し

[学会発表] (計8件)

- ①服部一秀、ドイツ後期中等公民的教科目の学力像－EPA(ゾチアルクンデ/政治)を手がかりとして－、日本社会科教育学会第62

回全国研究大会、2012年9月29日、東京学芸大学

- ②服部一秀、ドイツの後期中等歴史教育における学力像－2005年版EPAを手がかりとして－、日本教科教育学会第37回全国大会、2011年11月12日、沖縄大学
- ③服部一秀、ザクセン州ギムナジウム（第5～12学年）の歴史科における歴史文化探究力の育成、第60回全国社会科教育学会全国研究大会、2011年10月9日、広島大学
- ④服部一秀、ドイツ後期中等地理教育がねらうもの－アビトゥーア試験統一基準(EPA)から－、全国社会科教育学会第59回全国研究大会、2010年10月30日、同志社大学
- ⑤服部一秀、ドイツ地理学会版教育スタンダードにおける課題例、日本地理教育学会第60回大会、2010年8月21日、山梨大学
- ⑥服部一秀、近現代史教育改革の方向性－ドイツ連邦共和国ザクセン州の場合－、社会系教科教育学会第21回研究発表大会、2010年2月21日、兵庫教育大学
- ⑦服部一秀、ドイツにおける経済教育の動向－ドイツ経済教育学会版教育スタンダード－、全国社会科教育学会第58回全国研究大会、2009年10月10日、弘前大学
- ⑧服部一秀、ドイツ歴史教師協会(VGD)版「歴史」教育スタンダードモデルの構成、日本社会科教育学会第58回全国研究大会、2008年10月12日、滋賀大学

[図書] (計1件)

- ①日本社会科教育学会編、新版社会科教育事典、ぎょうせい、2012年、総頁数435(分担執筆項目「ドイツの社会科の動向」、pp. 366-367)

[その他]

ホームページ等

http://erdb.yamanashi.ac.jp/rdb/A_DisplayInfo.Scholar/1_3/C9CDBDA4A0EF7EF1.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部 一秀 (HATTORI KAZUHIDE)
山梨大学・教育学研究科・教授
研究者番号：60238029

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし